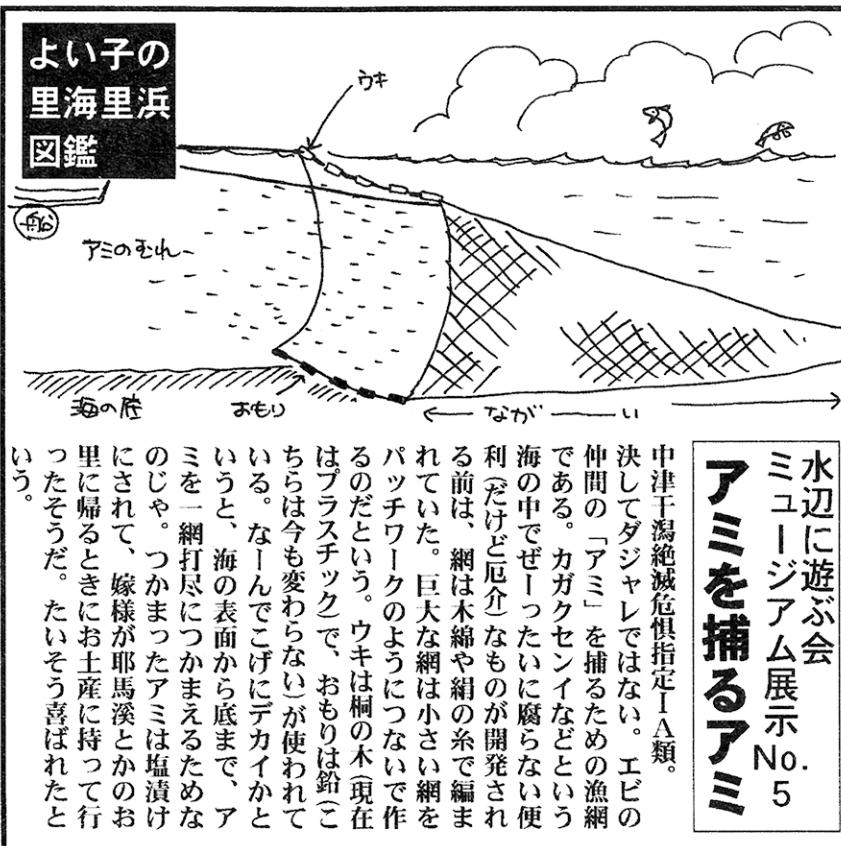


ナ：カブトガニ産卵に異常アリ!?

●この数年、順調に確認されてきたカブトガニの産卵が、今年は確認できませんでした。7月に降り続いた大雨と、夏から秋にかけての台風で、産卵地の砂州が流され、今年は不安定な状態が続いているのが原因ではないかと考えています。中津干潟はカブトガニの産卵に適した砂地がたくさんあるので、私たちの気づかない場所できっと産卵していると思いますが、ちょっと心配です。来年も引き続き、注意深く観察と調査を行いたいと思っています。



▼深夜、身体をふたつに折り曲げて、上向きに反らす。この繰り返しを始める。おおおーーどんどん頭が出てきた。ガンバレー。

▼その後、全国ネットのテレビにまで登場したカブちゃんは、干潟展終了後も博物館に10日間も居座り、殻が固くなったのを見計らって、無事海に帰つていきました。めでたしめでたし。いや、カブちゃんにとつては、ある日突然とつつかまって、狭いところに入れられて、慣れない環境で脱皮させられて…。ギャラリーは「お願い。今日は6時から用事があるの。それまでにね」とか「講座なんだよ。明日にしてくれないか」とか、「みんな勝手なお願いするし、いい迷惑だつたよね。ゴメンナサイでも、大人も子どもも、みんないい経験をさせてもらつて感動したんだ本当にありがとうございます。元気でね。」

▼干潟展最終日の早朝、ハタメイワク極まれりな「いのちあふれるフィナーレ」である。みんな「生まれた生まれた」と大喜び。えーと、脱皮なんだけどな。でも、超難産だったし、これはどう見ても「産まれ変わ

▼歴史博物館のスゴサを知る▲2ヶ月の間に学芸員さんたちからお仕事のお話をたくさんうかがいました。歴史博物館つて実は（→失礼）スゴイところだー!! とひたすら感心。

▼本当に??▲「いやー、夜の見回りは怖いんだよ。特に仏様の展示の時なんかはねー。いるんだよ。でも干潟展の間はカブトガニがいて寂しくなかつたな」と^{警備員さん}…………。

▼レプリカづくり盛況▲たこつぼ漁の時に講師を務めてくださるAさんが考案した「貝とカブトガニの型抜き」（勝手に命名）。粘土をムギューッと型に押し込んでポコッと抜くと、あーらふしき、海の生きもののできあがり！ 学習館の雨の日イベントでも登場しましたが、子どもだけではなく大人にも大人気でした。

▼たこつぼ集合▲ズラリと並んだM学芸員のたこつぼコレクションは、なかなかの迫力。職員の方たちが作ってくれださった折り紙もラブリー。

千鶴展 ● 一ぱれぱなし



「さぶう」の声が、タイムトリップしてやつてきた。